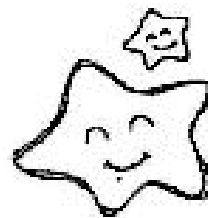


QSK にぬふあぶし

No.291

ね
子の方向の星(北極星)



映画『夜明け前のうた』を見て

読谷家族会会員 津嘉山一枝

私達は、病気を選ぶ事はできない。不幸にも統合失調症になったら、どんなに悲しいか苦しいか、病気になった人でないと理解してもらえない。

映画『夜明け前のうた』を見ました。

沖縄に多くの「私宅監置」の小屋があり、統合失調症になった方々が、この小屋に入れられ、孤独と恐怖のなかに置かれ、社会から隔離されました。

この「私宅監置」の制度は1900年に制定され、精神障害者は小屋に隔離され、人生を奪われました。何十年も隔離され、病気はひどくなるばかり、死亡した方も多くいたそうです。小屋のそばに立っている母親の後ろ姿が目には焼き付いて離れません……。隔離された方々のうめき声が聞こえてきます……。

1950年に本土では「私宅監置」の制度は廃止され、隔離された人々は解放され、病院等で治療が始まったそうです。それから22年経って、1972年祖国復帰の年に沖縄では、小屋から解放されて病院で治療ができたとのことです。沖縄は戦争をはじめ、いろいろと犠牲を強いられることが多く、本当に悲しいことです。

現在も居場所を見失って孤立している方々がいますが、どうしたらいいでしょうか？ 家族会も共々に助け合って、居場所を作っていきたいものです。



舞台挨拶 (桜坂劇場)



トークイベント (ジュンク堂那覇店)

3月30日～4月4日、那覇市ぶんかテンプス
写真展『闇から光へ ～夜明け前のうた～』開催

年度の切り替わりであわただしい期間でしたが、3月30日(火)～4月4日(日)まで、写真展を開催しました。沖縄県立総合精神保健福祉センターと那覇市(保健所)のご後援をいただき、県内外から沖縄の私宅監置の歴史と精神保健に関心を持つ方々、延べ約200名の来場がありました。

来場者の感想など(会場で自由記載のアンケートより抜粋)

- ・心の病気を持っています。保護室に入ったこともあります。私宅監置下におかれていた方の苦しみと絶望は計り知れないものであり、大切な家族をそのように閉じ込めざるを得なかった当時の人々のつらさを知ることができました。日本の精神医療の発展と進歩、偏見の低減を心から祈っています。
- ・映画とこの写真展に足を運んだのは、子供のころの記憶に、豚小屋で「お兄さん」がひざをかかえて住んでいるようだとの話が残っていて、あれは私宅監置だったのではないかと。沖縄の歴史の忘れてはいけない事実ですネ。
- ・1970年頃、テンプス近辺、伊藤肛門科(今はない)の近くに監置小屋、男の人の大きな声を聞いたことがある。
- ・過去の私宅監置小屋はなくなったが、現在は見えない私宅監置小屋となり、変わらず苦しみは続いている。
- ・見ていてすごく苦しくなりました。現実なんですね。…ただ「みんな同じ」「障がい個性」というきれいな言葉ではきっと本当の平等な世界は生まれえない、もっと本質に、根本に向き合わなければいけない、と痛感しました。展示会を開いてくださり、ありがとうございます。
- ・『夜明け前のうた』を観て衝撃を受けました。初めて「私宅監置」という意味を知ることができ、よかったのと、見えない闇がいい表現なのか分からないけど、とりあえずこれは見過ごすわけにはいかないと思いました。
- ・戦前の話だと思っていたのが、つい70年代まであったことを初めて知りました。深い問題だと思う。でも、やはり戦争のこと、27年に及ぶ米軍統治下のことを抜きには語れないのではないかと。
- ・私宅監置され、くらい小屋に閉じ込められていた方のことを考えると、とてもつらいです。



2021(令和3)年度 沖縄県障がい者委託訓練

介護職員初任者研修科

8月開講 受講生募集します！

募集期間 6月1日（火）～ 6月25日（金）

申込方法 住所を管轄するハローワークに職業相談の上、お申し込みください。

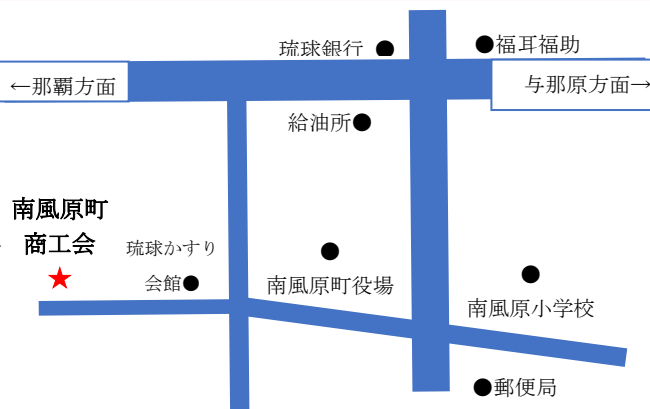
《ハローワーク連絡先》那覇 098-866-8609、沖縄 098-939-3200、

名護 0980-52-2886、宮古 0980-72-3329、八重山 0980-82-2327

今年度は開催実施
場所がかわります！

《訓練実施場所》

南風原町商工会 2階
南風原町字本部 158



訓練期間：8月2日（月）～ 10月29日（金） 3か月間

訓練実施場所：南風原町商工会 2階（南風原町字本部 158）

訓練実施先：公益社団法人沖縄県精神保健福祉連合会 電話 098-889-4011

沖縄県立浦添職業能力開発校

電話 098-879-3560

※ 詳しくは最寄りのハローワークへお問い合わせください。

雇用保険受給手続きをされる方

令和3年7月21日(水)までにお手続き下さい。この期限内に手続きを完了しない場合、訓練受講者に対する雇用保険給付の特別な措置を受けられない場合があります。

求職者支援制度対象者(特定求職者)の方

初回訓練相談締切日は令和3年6月24日(木)までです。

ハローワークでの訓練の相談・求職者の相談・求職登録は必須事項です。必ず行ってください。(厳守)

『リハはつらいよ ～求められたのは「する」より「いる」だった～』

理学療法士や作業療法士、言語聴覚士のための総合オンラインセミナー『リハノメ』のYouTube配信で、東畑開人さんと仲地宗幸さんの対談がありました。配信ビデオは右のQRコードや次のURLにアクセスすることで、無料で誰でも視聴することができます。

<https://youtu.be/87s3wd1jo0E>

(「リハノメ youtube」で検索しても見つかります)

最近、首里で地域づくりにも取り組んでいる仲地さんは、元病院勤務の気鋭の作業療法士ですが、日頃から第三者委員としても沖福連に関わっていただいています。東畑さんは過去に沖縄のクリニックでも勤めていたことのある臨床心理学者で、『野の医者は笑う』や『居るのはつらいよ』といった著作は、沖縄にいたころ手がけた研究や実体験をベースにしています。どちらの本も読み物として抜群に面白いだけでなく、「人の回復」についての豊かな示唆をもたらしてくれる名著です。(沖縄の固有名詞がたくさん出てくるので、沖縄県民にとっては特に馴染みやすく、“笑える”本にもなっていると思います)

今回の対談では、「プレーンな対人支援」やケアとセラピーの相関、そして「いる」ことについてなど、それぞれの考えをあらためて聞くことができました。

他職種(多職種)の目があると、みんな普段の自分を離れて専門職「っぽいこと」をやりがちなになる、それぞれの「フェイクな」役割を演じてしまうことがある、というあたりはとてもウチアタイを誘う話で、であるがために多職種連携というものには独特の居心地悪さがあるのかもなあと感じました。

人がそこに「いる」ことができるとはどういうことなのか、人と一緒に「いる」ことができなくなった人が、再び「いる」ことができるようになるためにはなにが大切なのか、それはそんなに難しい話ではないような気もするし、けれどもそれを人と人との関係性と置き換えたとき、やはり普遍的にして永遠のテーマに違いないようにも感じられます。(増山)



◎編集後記◎

▼東畑×仲地対談を視聴して思ったのは、「必要なのは支援ではなくて承認」なのだろうということ。

▼昨夏イェール大学の研究チームがアスファルトのもたらす大気汚染について発表を行ないました。共生社会の実現とは、凸凹の道をならさずそのまま受容するようなことではないでしょうか。歩くにも走るにも不便で、ときに泥だらけにもなりますが、息をするのはいくらか楽になるかも知れません。(増山)

編集：公益社団法人

沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 2-2-18

電話 092-753-9722 FAX092-753-9723

定 価：10円(会費に含まれる)